

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART NEWS

林原美術館

NEWS

Vol.

10

平成17年10月1日

企画展

「中国・ペルシヤの古代の陶器」

9月25日(日)～10月30日(日)

中国の新石器時代に現れた文様を描いた土器のことを彩陶といい、その歴史は五千年以上昔にさかのぼります。彩陶は当時の人々の生活を知ることが出来る資料であると同時に、そこに描かれた赤や黒の幾何学文様やユニークな形状からは、当時の美意識そのものを窺い知ることができます。これらの文様は表面に描かれ窯で焼かれているため、現在でもよく残つております。



彩陶双耳壺



彩陶人頭壺

古代陶器もあわせて展示します。古代の陶器が持つ美しい世界をご堪能下さい。

企画展

「館蔵 茶の湯道具と池田家の名品」

11月6日(日)～12月4日(日)

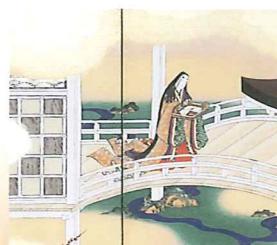
本展では当館所蔵の千利休書状をはじめ、天目などのお茶道具を紹介いたします。また、特別出品として、表千家不審菴がお持ちの青糸威具足を展示いたします。これは豊臣秀吉より千利休が拝領したという伝承のあるものです。あわせて池田家伝来の名宝も展示します。

企画展

「江戸の人々が見た源氏物語」

平成18年1月4日(水)～2月12日(日)

今から千年ほど前に紫式部によって書かれた「源氏物語」。日本を代表するこの物語は、書かれた当時の平安時代から一大ブームを引き起こしていったようです。当館にも源氏物語屏風をはじめ、この物語をテーマとした作品が所蔵されています。様々なに表現された「源氏物語」を紹介します。



源氏絵屏風（右隻部分）

企画展

「書画と文房具」

平成18年2月19日(日)～3月26日(日)



油滴天目茶碗



古筆手鑑「世々の友」（重美）

館蔵・茶道具展に寄せて

林原美術館長 熊倉功夫

茶の湯とは何か、と尋ねられますと、何と答えてよいか未だにわかりません。説明すればするほど、茶の湯の本質から遠ざかつてしまうように思えるからです。それでも強いていなならば、日本独自のもてなしの文化、といつておきましょう。

日本に喫茶の習慣が入って八〇〇年。茶の湯が誕生して五〇〇〇年。大成者千利休が亡くなつて四二五年の歴史があります。茶の湯はこの長い時間をかけて、道具やしつらい、点前作法さらに露地や茶室のスタイルをつくりました。茶の湯の環境と様式の中で、亭主と客は心と心のコミュニケーションをかわします。ですから、茶の湯の道具は客をもてなすための道具です。ここに茶道具の特殊性があります。

美術は鑑賞の対象ですが、茶道具

は使うことを前提にしています。使

うためには、どんな目的で、いつ、どこ

で、誰が使うか、という条件が必要

なのです。その条件にあつたとき、茶

道具は生命力を取り戻します。

美術館の茶道具も本当は茶室で

使つてみるのが一番良いのですが、な

かなか許されぬことです。美術館茶

会でその一端はお見せしたいと思いま

すが、まず最初に、林原美術館にどうようと今回の企画があるか、展示してみようとした。企画が生まれました。

茶の湯といえば天才茶人千利休の創造力に負うところが少なくあります。豊臣秀吉の命で切腹して果てるまでのわずか一〇年間に、秀吉と利休はある時は協力者、ライバル、さらに権力者と芸術家といった様々な面をみせます。館蔵の利休書状は、二人が互いに最もよき理解者であった時期の天正一三年正月三日の書状と思われます。秀吉が大坂城を築き、利休はその中に山里の茶室を建てました。その山里の茶室に、利休不在を承知で、急に秀吉が来て泊まるようになりました。おそらく秀吉に同行した武将が、堺にいる利休に知らせたのでしょう。それに対する返事に、利休の孫の千宗旦が、「これは利休真筆に間違いないし。」と証明書を書いていて、一緒に表具されています。

利休の手紙は貴重で、当時から偽物が少なくなかったのですから、利休の膝下に育つた宗旦の鑑定が一番信用されたのです。

表千家不審庵では、このたびの企

画に協力して、利休所用の具足を特別に出品して下さいました。これは秀吉より贈られたもので、おそらく螺鈿のみごとな天目台が揃つた油滴

天目は名品です。黒釉をたっぷりかけ焼成する天目茶碗は福建の建窯で生まれ、古くは建盞と呼ばれていました。建盞の中に窯の中で釉薬を天皇、上皇のお書きになつた宸筆をはじめ、禅僧の墨蹟があります。中國から日本へ渡來した南宋の禅僧西磯子曇の書や、一休和尚の行書が展示されます。また書院には台子を飾り三幅対の絵画が掛けられますので、本館の逸品を選んで掛けることにいたしましょう。床の道具のもう一つは花入です。中国の青磁の花入からわび茶の竹の花入まで、各種の楽しい花入が陳列されます。

さて手前の道具としては、茶入、茶碗、水指、風炉釜が中心です。茶入では名物肩衝茶入で松平乗邑が所持した瀬戸茶入銘淀や備前火櫻茶入銘雷神などの他、中国の小壺を茶入にみたてたものがあります。茶碗は当館には日本製の茶碗（国焼）

が少なくて、中国の天目茶碗や朝鮮半島の高麗茶碗に片寄っています。

螺鈿のみごとな天目台が揃つた油滴天目は名品です。黒釉をたっぷりかけ焼成する天目茶碗は福建の建窯で生まれ、古くは建盞と呼ばれていました。建盞の中に窯の中で釉薬を水に浮べたような五彩の斑紋が茶碗の表面にあらわれたのが油滴天目です。



矢筈口耳付水指

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART NEWS

What's New



大野義光氏の講演風景



国宝「彦根屏風(紙本金地著色風俗図)」
(彦根城博物館所蔵)

「岡山・林原美術館の名宝」

—国宝の太刀と大名道具—

7月24日(日)～8月22日(月)

彦根城博物館では、林原美術館所蔵の国宝 太刀吉房や、池田家伝来の名品の数々が展示されました。岡山を離れ、彦根を中心に多くの方々に林原美術館所蔵の様々な美術・工芸品を知つていただきました。また、本展中に彦根城博物館では、備前刀の復興のために林原が支援している大野義光刀匠の講演会と、日本刀への理解を深めていただくために制作した映画「匠」が上映されました。講演会、映画とともに満席となる反響でした。

林原美術館と彦根城博物館は、両館で所蔵している作品の交換展示をすることで、岡山、彦根のそれぞれの地域で、お互いの作品を広く知つていただく展覧会を企画しました。

特別展

「彦根藩井伊家の名宝」

7月24日(日)～8月21日(日)

特別展「彦根藩井伊家の名宝」では、国宝「彦根屏風(紙本金地著色風俗図)」をはじめ、桜田門外の変で有名な井伊直弼にまつわる茶の湯道具など、滋賀県彦根市の彦根城博物館に所蔵されている井伊家伝来の名宝をご紹介しました。江戸時代初期の風俗を伝える国宝「彦根屏風」は、短い展示期間でしたが、岡山のたくさんの方々にご覧いただき、大変好評でした。

林原美術館と彦根城博物館との交換展について

New 林原美術館名品展 華麗なる能装束

会期／平成17年9月10日(土)～10月16日(日)
会場／郡山市立美術館

福島県にある郡山市立美術館は、多様で質の高い作品を市民の方に見ていただこうと様々な企画をされています。今回の企画は当館が全面的に協力し、当館の所蔵品の中でも大きなコレクションの1つである備前池田家伝來の能装束を中心として、重要文化財4点を含む84点が出品されています。当館の所蔵品が東京以東でこれほど多数展示されるのは、今回が初めてとなります。



New 収藏能装束の修理

美術館の仕事の一つとして、収蔵品の保存・修復があります。当館では作品を長く伝えていくために、今回、能装束「段片身替りに雪持芭蕉文様繡箔」の修復を行ふこととなりました。この作品は当館の代表的な作品であり、グッズなどにも取り上げられている作品ですが、作品の状態が思わしくなく近年はめったに展示されておりません。修復期間は約1年の予定です。修復後はお披露目展示を行い、皆様にご覧いたいと思います。

段片身替りに雪持芭蕉文様繡箔

New 第五回 美術館周遊の旅について

平成17年6月18日(土)、香川を代表する

二人の芸術家イサム・ノグチ庭園美術館、猪熊弦一郎美術館と高松松平家伝来品を收藏する香川県歴史博物館を訪れました。



猪熊弦一郎現代美術館にて

潮風に吹かれながらフェリーで高松に渡り、香川の歴史、芸術作品に触れながら楽しい一日を過ごしました。

New 洛中洛外図屏風 研究会

平成十四年度から平成十七年三月まで「第二定期洛中洛外図屏風の総合的研究」が行われました。本研究では、当館の洛中洛外図屏風を高精細デジタル画像化し、基礎となるデータベースのソフトが完成されました。引き続き本年度からは「中近世風俗画の高精細デジタル化と絵画史料学的研究」が開始されています。本研究では、当館の洛中洛外図屏風の諸データの完成と、このデータベースをより発展させ多くの他の史料に応用することによって、多様な機関で活用できるシステムの開発研究を目指します。今後、この研究の成果を皆様に公開できるよう、研究を進めています。

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART NEWS



茶室 竹明庵

お茶会のご案内

このたび林原美術館の庭にある茶室「竹明庵」の屋根の修理が完成したのをきに、企画展「館蔵 茶の湯道具と池田家の名品」の行事の一環として、当館館長熊倉功夫が亭主となつてお茶席を開きます。是非この機会に、お茶を一服お召し上がりいただき、楽しいひとときをお過ごしください。尚、今回の参加は友の会会員限定になっています。多くの会員の方のご参加をお待ちしています。

日 時 平成17年11月19日(土)・20日(日)

10時～15時30分

ただし、12時30分～13時は休憩

場 所 林原美術館 「竹明庵」
亭 主 館長 熊倉功夫

参加費 千円

第三回ワークショップ「銘切り」「小刀製作」

昨年、大変好評でしたワークショップ「銘切り」と「小刀製作」を本年も開催いたします。「銘切り」は大野義光刀匠、「小刀製作」は大野刀匠と弟子の大野行光刀匠に指導していただきます。郷土の育んだ備前刀の文化や技術を体験するとともに、日本が世界に誇る伝統工芸品である日本刀に対する理解を、一層深めていただければと考えています。

なお、今回のワークショップは、人数の都合上、原則として当館友の会会員の方を優先とさせていただきます。

「銘切り」(小学校高学年～中学生と保護者の方対象)

大野義光刀匠による、刀剣製作行程の説明と「銘切り」の指導。

日 時 平成17年11月26日(土)

10時～16時

場 所 林原桑野刀劍鍛錬道場
定 員 10組20名(要予約)

参加費 無料

*銘を入れた文鎮(一人一本)を
お持ち帰りいただけます。



「銘切り」作業風景

「小刀製作」(大人対象)

講 師 大野義光刀匠 高野行光刀匠
日 時 平成17年11月23日(水)・27日(日)
10時～18時

場 所 林原桑野刀劍鍛錬道場
定 員 各5名(要予約)

参加費 2万円

*実際に小刀作りに挑戦します。
なお後日、実費(1万円程度)にて
研ぎ・鞘付きでお渡しすることも
出来ます。



「小刀製作」作業前的小刀と完成品

●「友の会」募集のご案内●

○会員の種類・年会費
個人会員 1年

3,000円(新規)
2,700円(継続)

7,000円(新規)
30,000円(継続)

27,000円(継続)
70,000円

法人会員 3年
1年

3年
27,000円(継続)
70,000円

◎有効期限
(平成17年度の場合)

4月1日～3月31日 ※申込みは隨時受付中

・1年会員 平成17年4月1日～平成18年3月31日

・3年会員 平成17年4月1日～平成20年3月31日

○会員の特典(主なもののみ、他にもあります)

①入館料無料、または割引料金

【企画展】ご本人と同伴者1名様、無料

【特別展】ご本人と同伴者1名様、割引料金

②スタンプラリー実施

その年度の全展覧会をご鑑賞の方には林原のオリジナルグッズをプレゼント

③展覧会情報の送付

・展覧会ごとの案内状の送付

・「林原美術館ニュース」(年2回発行)の送付

④イベント参加

・当館の行事に会員割引料金で優先的にご案内

・会員様限定の特別行事あり

・(平成17年度の場合)

熊倉館長亭主のお茶会を開催(11月)

ご入会のお申込みは、お気軽に美術館スタッフまでお尋ねください。

後記

第10号の美術館ニュースをお届けいたしました。
今年度後半は、館蔵品を中心とした企画展を軸に、
お茶会や刀剣のワークショップなど、皆様と直接
触れ合える催しを予定しています。皆様のご来館、
ご参加をお待ちいたしております。(S&A)

TEL 086-223-1711
FAX 086-223-1711
TEL 086-223-1711
FAX 086-223-1711